

<p>Vol.108 No.3 2017.11.10</p>	<h1>農職組ニュース</h1>	<p>茨城大学農学部 労働組合</p>
--	------------------	-------------------------

— 職場懇談会(10月18日)のご報告 —

【参加人数:35名(教員26名、職員9名)】

今回の職場懇談会は、全国大学高専教職員組合書記長の長山泰秀様をお招きし、短い時間の中でしたが、農学部労働組合として当局へどのように交渉をおこなっていくかについてアドバイスをいただきました。以下、懇談会当日の内容となります。

【全大教長山書記長より】

- ・要求を明確にする。
- ・相手のことをリサーチする。相手は何を重視しているのか、どの点ならば譲歩してくるのか。
- ・他チャンネルの検討。学部長は味方になるか。農学部としての要求は可能か。
- ・交渉の継続性を重視するために、引き継ぎを確実に行う。
- ・財務状況が悪いことを理由だそうだが、賃金決定のプロセスについて明確に問う。
- ・財務状況について問いたです。経営戦略について問う。

【質疑応答】

質問:財務状況に問い質すのは、会計の素人からすればむずかしいのではないか。

回答:公認会計士等のプロの助けをかりて、賃下げ率を削減した例もある。もしくは全大教のネットワークを利用して、状況が似ている機関同士を比較条件として交渉しても良いのではないか。その情報提供について全大教として協力できるかもしれない。

質問:茨城大学の非常勤職員は、なぜ3年契約なのか。本来であれば5年まで雇用可能ではないか。

回答:本来、法人側として非常勤職員は臨時に雇用するという建前だった(実質は異なる)。その建前を維持するために期間を短くし、外部に説明しやすくしている。5年契約も可能であるが、無期雇用転換と紙一重の期間にすると、後々交渉でもめる可能性があるのも、3年契約を堅持している理由ではないか。

以上

今後、組合では、今年度の雇止め該当者6名が契約更新できるように大学へ要望書を提出する予定です。また、これからの団体交渉については、交渉内容を組合ニュース等でお知らせしていきたいと思えます。

※内容についてのお問い合わせや情報提供などありましたら、
農学部労働組合(029-888-8536 / hisae.taguchi.maro@vc.ibaraki.ac.jp)までお願いします。

鎌耕祭

バザールくみあいに ご協力ありがとうございました

今年も鎌耕祭（10月28日（土））に、「バザーとヨーヨー釣り」で参加いたしました。皆様のご協力をいただき、お陰様をもちまして、無事に終えることができました。どうもありがとうございました。

また、品物のご提供、当日のお手伝いにご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

当日は台風の接近もあり、午前中は曇り、お昼頃からは雨が降り始め、あいにくのお天気となってしまいました。場所は、鎌耕祭実行委員会のご配慮をいただき、図書館前の目立つところでしたが、天気が悪かったせいか、赤字にこそならなかったものの売り上げは今一つでした。今回の収益に関しては、経費を除いた分を組合にカンパさせていただきたいと思っております。

また来年も鎌耕祭に参加する予定です。

どうぞよろしく願いいたします。

2017年度「バザールくみあい」実行委員会



— 新組合員加入のご報告 —

DD・AIMS 担当の 相本みさきさんが、10月より組合
に加入してくださいました！！
どうぞよろしく願いいたします。

